

紙管の用途拡大や製品化をめざし技術開発に注力

- 納期相談
- 企画力自信有
- オンライン技術
- メイドインジャパン
- 試作可小ロット



紙管を使用したオリジナル家具

主な事業内容

紙管製品の製造・販売

主な取引先(納入先)

各種紡績関係メーカー、シーリング材メーカーなど

主な製品

巻き取り用紙管(ボビン、スプール)、カートリッジ紙管など

業務内容
工業用材料の巻き取り芯や容器が主力製品

三協丸筒は、布やフィルム、テープなど工業用材料を巻き取る際に芯材となる紙管を製造する専門メーカー。昭和43年に包装材料販売会社として創業し、同年に紙管の製造を開始した。建物などの目地に施工するシーリング材用のカートリッジも製造しており、現在もメイン製品の二つである。また、カレンダーやポスターを郵送する際に使う紙筒や、両端が半円形に折り曲がるように加工した製品のほか卒業証書用丸筒なども手がける。

社名は創業に関わった当時の社長、専務、工場長3人の結びつきを象徴する。事業を通じて技術と人、人とモノとのよい関係を構築するという会社の基本姿勢も表している。

強み
独自の縦溝加工紙管を
活用して家具開発

令和2年以降に新型コロナウイルス感染症が拡大する中、新商品を模索。紙管と樹脂製のジョイント部品を組み合わせて枠組みにし、ビニールシートを付加した飛沫防止パーテーションを発売した。また、紙管にシートを付加する方法として紙管の側面にスリット(溝)を縦方向に入れる加工方法も考案し、加工機器

メーカーと関連設備を共同開発した。

紙管にスリットを入れる加工の実用化は業界初。この紙管にアクリル板などをはめ込むことで強度および安定性が得られる。このような特長を生かしてオリジナル家具を開発し、特許も取得した。開発商品は自社通販サイト「恋する紙管」で販売している。

環境製品
生分解性プラや
再生コルクを積極的に採用

用途や使用環境・条件に合わせたカスタムオーダー製品の開発・製造にも対応。湿気に強い素材を使った紙管や、滑りやすい生地を巻くための紙管などを提案している。また、環境負荷が小さいエコ製品の開発にも力を入れる。紡績業界向けボビン(巻き筒)の留め具や、シーリング材用カートリッジのノズルなどに生分解性プラスチックを採用するほか、ポスター郵送や絵画保管用紙筒の蓋に再生コルクを用いている。「紡績業界向けボビンはツバの留め具素材の変更にとどまらず、金型から形状を再設計し、製造時に糊を使わなくてもしっかりと留まり、強度を維持できるようにしている」と栗村豪優社長は、こう創意工夫を明かす。「年間15万本以上を国内外に出荷している」とし、未来を意識した環境配慮型の製品づくりに、さらなる意欲を示す。

社長あいさつ



代表取締役
くわむら たけまさ
栗村 豪優さん

ものづくりは一人ではできません。仕入れ先と協力会社、そして、お客様によって支えられ、成り立っています。私たちはものづくりで結ばれる関係性を大切にしながら、次世代や未来を意識して生み出されたアイデアや製品を提供することで社会に貢献していきたいと考えています。

主な保有設備

- 全自動二基筒ラングストン 生田鉄工製 1台
- 縦割紙管機 小川製作所製 2台
- 足踏み式カッター 5台
- 断裁機 Fuji 1000-III 余田機械工業製 1台
- 高周波装置 SPA-30 ミヤデン製 1台

大阪 06

住所 / 〒581-0039
八尾市太田新町
5-51

TEL / 072-949-0340
FAX / 072-949-1664

創業 / 昭和43年3月
設立 / 昭和46年9月
資本金 / 1,000万円
従業員 / 9名



ひもやテープを巻き取るボビン



再生コルクキャップ採用の丸筒

